

# 大謝名 歴史文化遺産マップ

※ 1・2・3・10・15 は、現存していません。  
※ 私有地にある場合もありますので、見学の際は注意しましょう。



<市立博物館所蔵>

## 1 大謝名駅跡

戦前にあった沖縄県営軽便鉄道の駅跡です。1922(大正11)年に開業した嘉手納線の無人駅の一つです。宜野湾村(当時)には、他に真志喜駅(無人)と大山駅(有人)がありました。写真は大山で発見された客車の台車です。



## 2 ヤマトウガー

察度は港田原(現在の大謝名小学校あたり)で、中国や大和(日本)と交易を行いました。特に自分の畑から出た黄金と鉄を交換して農具を作り、地域の人々に分け与え喜ばれました。ヤマトウガーは小学校の裏門近くであり、大和船が水を汲む場所であったそうです。

## 3 大謝名カンジャーガマ 岩陰遺跡

公民館の近くにあった17世紀の遺跡です。鉄を加工した場所と考えられ、2基の炉と溶かした鉄から出るカス(鉄滓)などが見つかりました。時代が違いますが、察度が入り口に配った鉄製の農具を作った場所であるという伝承があります。市道舗装道路に伴い、コンクリートでふさがれています。



## 4 謝魂之塔

メヌモーにある慰霊塔です。大謝名区が、1968(昭和43)年11月に建立しました。第二次世界大戦における、宇大謝名出身の戦没者(200余柱)の氏名が刻銘されています。毎年11月に、塔の前で大謝名区による慰霊祭が行われています。

## 5 地頭火又神

集落の拝所の一つです。建てられた理由などの、伝承は不明です。旧家が集まる上村渠にあった、前恩納(屋号)の屋敷近くにありました。戦後、パイプライン道路拡幅工事により敷地が削られたので、現在ではメヌモーへ遷座されています。

## 6 土帝君

土帝君は中国から伝わった農業神です。かつて土帝君があった県営大謝名団地周辺は、良い水田地帯でしたが、低い土地なので大雨が降ると水没したそうです。現在はメヌモーに遷座され、旧暦2月2日に大謝名獅子舞保存会の役員が拝みます。

## 7 大謝名メヌカー

大謝名の人びとが、かつて生活用水・若水・産水・死水として使った、暮らしや人生の節目の行事に欠かせない湧き水です。樋口の上の窪みには、香炉が祀られています。湧き水に通じる立派な石畳である坂道は、カーピラと呼ばれています。市指定文化財です。

## 8 大謝名の獅子舞

「イキガシーシ(男獅子)」、「けんかシーシ」と呼ばれています。毎年旧暦八月十五夜の豊年祭に公民館広場で、獅子舞の奉納演舞である「シーシケーラシ」が行われます。獅子は、演舞の前に、集落内を決まった道順で廻り、2箇所の十字路で演舞します。市指定文化財です。

## 9 クガンナー(黄金宮)

黄金庭、黄金森グスク、金宮とも呼ばれます。「琉球国由来記」には「コガネミヤヨリアゲ森(神名:真次良御イベ)」との記述があります。察度が中山王として即位する前に楼閣(ろうかく)を造営し、居住した場所と伝わっています。周辺一帯からは、グスク時代の土器や中国製の外来陶磁器などが採取されています。

## 10 イーナヤマ(上之山)

第13沖駐車場の付近にあった小高い山です(矢印)。集落の大事な拝所で、クサティムイ(腰当森)でした。クサティムイは、赤子が抱かれてよりかかる状態のことです。山は戦後の米軍向け貸住宅建設工事で消滅したため、拝所は黄金宮の敷地内に遷座されました。



## 11 ウシアミシガー

昔から使われてきた湧き水のひとつです。名前は、牛を水浴びさせたことに由来します。かつては、一段下がった水場に、牛を連れて降りることができた地形になっていました。



## 12 大謝名クシヌカー

大謝名メヌカーと共に、昔から使われてきた湧き水のひとつです。地下の洞穴の天井が崩落した、すり鉢型の陥没ドリーネという地形になっています。毎年旧暦八月十五夜の獅子舞の前に祭祀が行われます。現在は、駐車場の一番奥にあります。ミーガーとも呼ばれています。



## 13 マテーシ(又吉)

ウカマとも呼ばれます。集落の草分けの家筋の一つで、最も古いことからニヤ(根屋)とされていて、集落祭祀の中心の役割を担っていました。現在は後継ぎが絶えたため、屋敷跡にヒヌカン(火の神)を祀る祠を設けています。旧暦八月十五夜の獅子舞などの行事の前に拝みます。



## 14 カニマンバカ(金満墓)

「明実録」には「洪武五(1372)年十二月壬寅 楊載 琉球国に使わせるに中山王察度弟泰期を遣わして表を奉り方物を貢す」とあり、察度が弟の泰期を中国に遣わし、朝貢したことが記録されています。その泰期の墓が金満墓だと言われています。



(1970年代撮影)

## 15 クチグワーアブ

天久モーターズの裏にあった堅穴の洞窟です。石が転がり落ちると「ドンドン」と音がしたことから、大謝名以外では「ドンドンガマ」と呼ばれていました。大雨のたびに水があふれ出ていたことが、1983(昭和58)年に住宅の一部を含む地盤が崩落したので、現在では埋められています。



<沖縄県公文書館所蔵>

(現在の様子)